

ホームックス

古紙卸売事業に参入

収集、加工まで一貫体制整備

施設管理・環境関連事業などを手掛けるホームックス(本社豊田市錦町、餅原幹也社長、電話0565・33・2468)は、再生用古紙の卸売事業に参入した。大型圧縮梱包(こんぼう)設備を導入。従来アウトソーシングしていた古紙の圧縮・減容を自社で行い、国内外の製紙メーカーへ納入する。事業所や家庭など排出先からの収集・運搬から加工を経て納入まで、同社がループがワンストップで行う体制を確立するのが狙い。(豊田・山岡賢彦)

同社は、スーパーや工場、治体の委託による家庭から倉庫など事業所からと、自らの2ルートを中心に古紙を



ホームックスが導入した古紙用圧縮梱包設備

収集。パッカー車(ごみ収集車)に計量装置を搭載し、運搬量を顧客に報告するなど、収集事業で「ごみの見える化」も推進している。

また、収集量拡大と顧客参加型

の地域貢献サービスを兼ね、古紙・ダンボールを回

収ボックスに投入するとスーパーなどで使えるポイントが貯まる省スペース型リサイクルポスト「エコぼ」も運営している。

卸売事業開始後は、集めた古紙をグループ企業のエムスカンパニー(本社豊田市庄鷺町畑林、同社長)に設置した梱包施設でプレス。約4分の1に減容し、ブロック形状に固めて運搬コストを削減。高付加価値化を図った上で納入する。出荷量は、現在、自社グループで回収している月6

00ト程度だが、今後は外部の回収業者からも引き受ける予定で、当面、月1千トを目指す。